

～「治験被験者募集の為の情報提供」（治験広報）および「治験」に関する生活者および医師を対象とした意識調査を博報堂が実施～

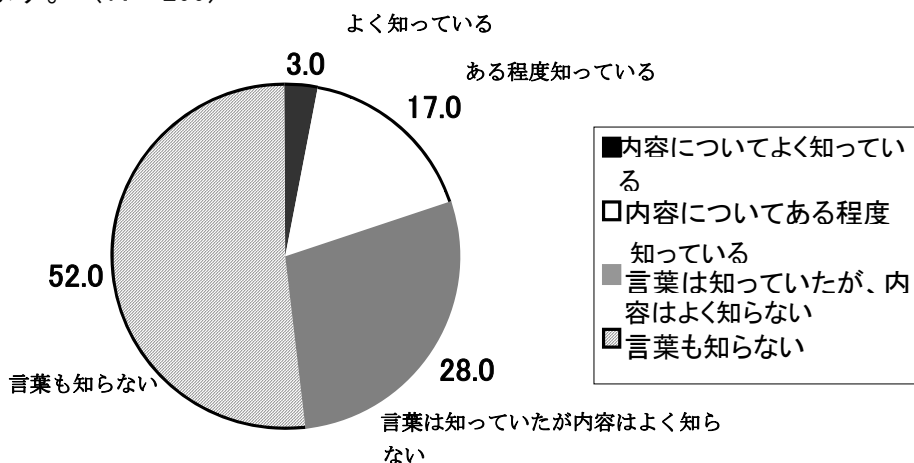
博報堂は、99年の規制緩和により開始された「治験被験者募集の為の情報提供」（治験広報）および「治験」そのものに関する生活者及び医師を対象とした意識調査を実施し、その結果がまとまりましたので、ご報告申し上げます。

一般生活者における「治験」に対する理解はまだまだ不十分なようです。生活者は、「副作用の不安」「情報提供に対する不安」といったネガティブな意識を持ち、これらが治験参加の阻害要因になっていると考えられます。

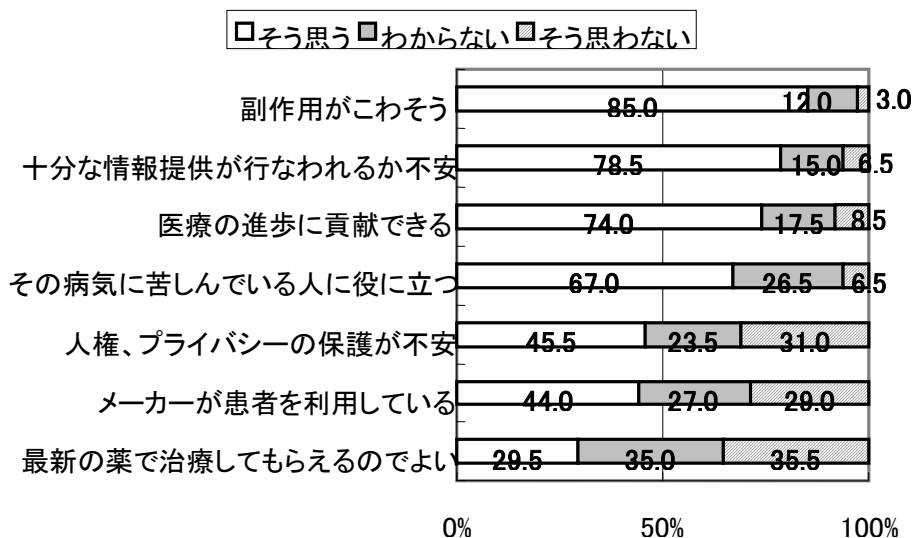
一方、医師は「多くのサンプルが集まる」「被験者への説明がしやすい」といった理由から治験広報推進派が半数以上を占めました。

※「治験」とは、製薬会社が病院などで医師が処方する「医療用医薬品」の新製品を開発する際に、国（厚生労働省）から医薬品として承認してもらう為に、その薬の対象となる患者さんに薬を試していただくことです。99年6月の「治験に係る被験者募集の情報提供の取扱いについて」を受けて、主に新聞を中心した「情報提供」が解禁となり、最近新聞紙上で目にするようになりました。

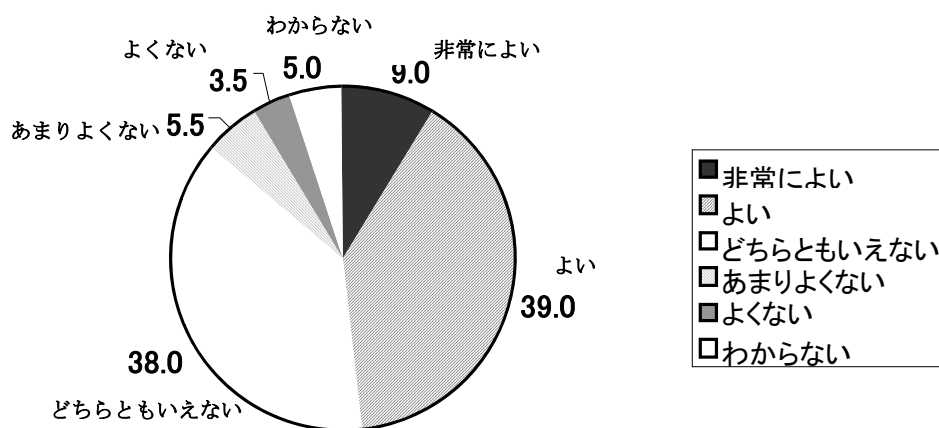
**データ 1** 一般生活者の「治験」そのものへの認知は5割、しかし、理解2割にとどまっています。（N=200）



**データ2** 一般生活者は、治験は「医療の進歩に貢献できる」「病気で苦しんでいる人に役に立つ」など社会的には必要とは考えつつ、しかし、いざとなると「副作用」「情報提供」などへの「不安」を抱えているようです。(N=200)



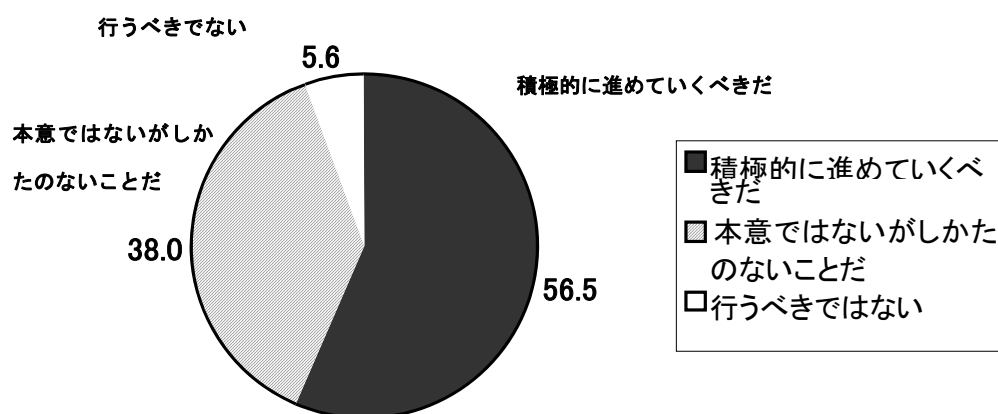
**データ3** 一般生活者は48%が「新聞での被験者募集の情報提供」を良い、と答えました。「情報公開により公平性が保てる」「人の役に立つ」などが主な理由でした。(N=200)



<主な肯定理由> (非常によい+よい N=96)

- ・ 情報公開により、公平・公正が保たれる (57件)
- ・ その病気で苦しんでいる人の役に立つ (26件)
- ・ 医学の発展に役立つ (13件)

**データ 4** 医師は過半数（56.5%）が「患者さんが集まりやすい」「前向きな姿勢で集まってくれるので説明がしやすい」などの理由から新聞等による被験者募集に関して「積極推進派」ですが、38%の医師は「治験薬に過大な期待を抱くのでは」「患者さんと医師との人間関係への不安」などから「本意ではない」と答えました。  
（N=108）



<「積極的に進めていくべき」主な理由> (N=61)

- 対象患者が集まりやすい 88.5%
- 前向きな姿勢で集まってくるので、説明がしやすい 80.3%
- たくさん症例が集まるので、得られるデータが信頼できる 52.5%

<「本意ではないがしかたのないことだ」主な理由> (N=41)

- 対象患者が集まりやすい 53.7%
- 前向きな姿勢で集まってくるので、説明がしやすい 46.3%
- 患者が治験薬に過大な期待を持つのではないか 41.5%
- 広告募集の患者は担当医との人間関係の面で不安がある 36.6%

以上、「治験被験者募集の為の情報提供」（治験広報）および「治験」に関する生活者および医師を対象とした意識調査の結果概要です。今後はこの結果をふまえ、各種疾患に関する生活者意識調査の実施を検討しておりますので、随時結果を発表させていただきます。

## 調査概要

### <生活者調査>

対象エリア : 首都圏 (東京 40km 圏)

対象サンプル : 最近 1 年間に外科・歯科以外に入院・通院経験のある、  
30～60 代の男女個人 200 サンプル

調査方法 : 留置法

調査時期 : 2000 年 10 月 28 日 (土) ～11 月 12 日 (日)

### <医師調査>

対象エリア : 全国

対象サンプル : 医師 (内科、外科、整形外科、皮膚科、耳鼻科、泌尿器科、  
産婦人科) 108 サンプル

調査方法 : インターネット調査

調査時期 : 2001 年 3 月 9 日 (金) ～16 日 (金)

本件に関するお問合せは以下までお願い致します。

博報堂医薬品市場開発プロジェクト 担当 : 石井、熊谷

電話 : 03 (5446) 8622